

日本は木の国。なのに、 伝統木造建築は造りにくい。

世界最古の木造建築、法隆寺をはじめ、日本の建築職人は、古来、山の木を活かし、その地の気候風土や文化に根ざした美しい建物を、一棟一棟、大切に造ってきました。

しかし、いまや家は大量生産される工業製品に。日本全国同じような家が立ち並び、建築関連の法律や住宅資金の融資なども工業化住宅を前提としたものとなり、自然素材と職人技術による伝統的な家づくりは、年々しにくくなっています。

しかし、伝統木造の家づくりには「古きよきものを守る」以上の、日本の山や人々を元気づけ、自然と共生する持続可能な未来を築くポテンシャルがあると、私たちは信じています。



状況を改善するために、つくり手は 10年以上前から活動を続けています。

そこで、伝統木造住宅の構造安全性の科学的な検証、環境性能調査、法案へのパブリックコメントの取りまとめと提出など、実務者が協力し合い、専門的なアクションを積み重ねてまいりました。が、厳しい現状は、まだ打開されてはいません。

2005	「このままでは伝統構法の家につくれない！」フォーラム
2007-2011	伝統的木造住宅の設計法と性能検証実験検討委員会に実務者委員として、設計法作成、実大振動台実験などに協力
2013	伝統木造住宅の温熱環境調査に協力
2015	「改正省エネ法」案へのパブリックコメント
2017	各地で「気候風土適応住宅」基準の検討を開始

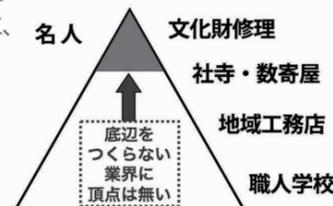


実大振動台実験

ユネスコ無形文化遺産に推薦されることが決まりました。しかし ...

3年前「伝統構法をユネスコ無形文化遺産に！」運動を始めました。工学的、法律的にも苦戦が続く中、日本の木造建築文化の価値を世界に発信することが、国内での再評価の気運を盛りあげ、伝統木造を救うラストチャンスになるのでは、と。

この運動は効を奏し、政府は来春「日本の伝統建築 工匠の技」をユネスコに無形文化遺産候補に推挙することを決定。が、その対象は文化財の保存修理技術のみ。家大工や庭師、石工、道具鍛冶は入りません。この裾野を「伝統建築に携わるすべての職人」にまで広げるために「職人宣言キャンペーン」を始めました。



今は、一般の人の声が、世の中を 変える時代。あなたも職人宣言を！

「和食」がユネスコ無形文化遺産になったのはご存知でしょう。料亭のごちそうから正月のお節、家庭料理まで、日本の伝統的な「食」が幅広く評価され、大きな経済効果をもたらしました。建築も同じこと。社寺から、一般住宅、庭、道具鍛冶まで「広い裾野」があってはじめて、日本の建築文化は守られます。

「そうあってほしい」と願う人が増えれば、きっと叶います。署名でも、反対運動でもなく、ひとりひとりが想いを自らの言葉で語り、SNS で発信することが、世論をつくり、国を動かします。「#職人宣言」キャンペーンに、ぜひご参加ください！



職人宣言の参加方法



日本の伝統的な美しい町並みを残すには、 たくさんの職種、大勢の職人が必要です！

京都、奈良、倉敷、金沢、飛騨高山、五箇山、近江八幡、川越、角館、栃木、函館・・・日本全国各地に、伝統的な町並みや集落、町家や民家がまだ残っています。インバウンド観光、古民家活用の民泊など、見直しの気運も高まっていますが、伝統的建築を造り、直すことのできる職人の減少により、このままではあと数十年で多くが消滅してしまいかねないことを、あなたは知っていますか？

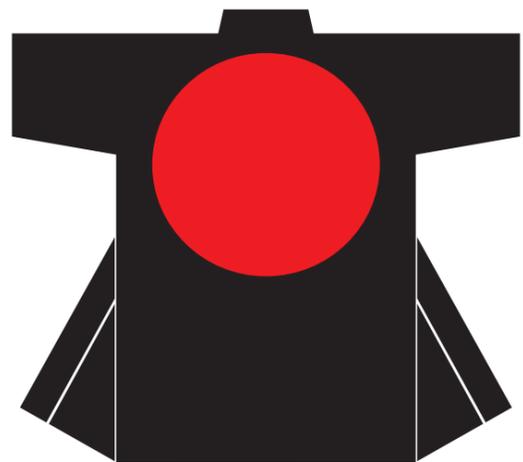
住宅の工業製品化、法規制、後継者不足などにより、日本全国から職人と、その技術が消えつつあります。幸い、文化財建築を保存

修理する技術については、政府が来春3月に「日本建築 工匠の技」としてユネスコ無形文化遺産に推薦することが決まっています。この裾野を、一般住宅を伝統技術でつくる職人たちにまで広げ、推薦リストに加えることができれば、その技が後世に継承される可能性が高まります。

残された時間は、あと半年。今は一般の人の声が世の中を変える時代です。職人のあなたも、職人でないあなたも、伝統を未来につなげるために「#職人宣言 キャンペーン」にご参加ください！

一般社団法人
伝統を未来につなげる会
denmi.jp





伝統建築工匠の技

TRADITIONAL SKILLS

都道府県

職種

氏名
